

2018 WTS YOKOHAMA Age group operation manual SWIM leg

稲田隆俊、元嶋直子

Agenda

- 1 人員および役割
- 2 共通事項
- 3 スタート前におけるオペレーション
- 4 競技中におけるオペレーション
- 5 スイムフィニッシュにおけるオペレーション
- 6 リタイアする選手への対応
- 7 付帯事項
- 8 必要備品

1 人員および役割

CTO チーフテクニカルオフィシャル

STO サブチーフテクニカルオフィシャル

テクニカルオフィシャル

- M1 3名 スイム受付（アンクルバンド、DNS管理）
 - M2 2名+STO1名 召集・誘導
 - M3 1名 スターター（兼メディア台側リタイア管理）
 - M4 1名 スタートコントロール（兼周回コントロール）
 - M5 1名 周回誘導（兼海上監視）
 - M6 2名 周回時タイムカット（兼海上監視、周回誘導）
 - M7 1名 ポンツーン側救助船
 - M8 1名 氷川丸側救助船
 - M9 2名 誘導（リタイア者誘導、スイムUP後のトランジションへの誘導）
 - M10 2名 氷川丸側バルコニー リタイア対応
 - M11 2名 記録・連絡
 - M12 3名 試泳監視誘導担当
- 合計 23名

2 共通事項

- 2.1 各ウェーブの以下の項目を正確に把握しておく。（P16の表を参照下さい。）

- ① だいたいの人数
- ② スイムキャップの色
- ③ 整列時刻
- ④ 試泳開始時刻(各ウェーブのスタート15分前)
- ⑤ スタート時刻
- ⑥ 1周回目とスイムフィニッシュの制限時間(何色のスイムキャップの選手が何時何分までにスイムを終了させないといけないか)

2.2 リタイア対応

「6.リタイアする選手への対応」を参照。

2.3 スイム競技の会場においては、水上TOだけでは対応できないことが多々あるので、付近にいるライフセーバーや潜水士の方々とレース前に十分なコンタクトとっておくこと。また、ポンツーン上にはメディカルスタッフも配置されるので、その方々とも密な連携が必要。さらに大会幹部や報道関係者も来場するので、これらの方々の安全にも配慮するとともに、安全な競技進行を前提に、可能な範囲でその活動を支援する。

2.4 競技中の選手が緊急事態に陥った場合の救助ルート・連絡体制を把握すること。救助ルートを確認するため、必要に応じて選手を誘導/停止させること。

《海上救助基本ルート》

救助艇/ライフセーバーのボード ⇒ バルコニー(氷川丸側) ⇒ 救護テント

無線を持っているTO:大会本部に無線により連絡

無線を持っていないTO:携帯で技術代表に連絡。または近くの無線をもっているTOに知らせ、大会本部に連絡してもらう。

携帯番号:小金澤 080-3010-5630

3 スタート前におけるオペレーション

3.1 CTO:水温計測

- ① 06時30分になったら水温を計測し、技術代表へ報告する

3.2 M1:スイム受付(アンクルバンド、DNS管理)

- ① 受付の準備及び、選手へのアンクルバンド渡しをボランティアに指示する。アンクルバンド渡し、選手待機エリアのコントロールは、ボランティアメインに行う。TOは指示及び補佐を行う。
- ② レースナンバー変更リスト/DNSリスト(受付前に連絡済みのもの)があれば予め貰っておく。
- ③ 準備が整い、時間になったらアンクルバンド配布を開始すると同時に開始したことを無線で連絡する。

- ④ 受付時間になっても準備が整わない場合は、準備が整った後にアンクルバンド配布を開始し、開始したことを無線で連絡をする。
- ⑤ 予備のアンクルバンドを使用した時は、選手のレースナンバー/名前/カテゴリーをリストに記入しチーフに連絡する。
- ⑥ 予備品を貸与した場合は、選手の名前/レースナンバー/貸与品をリストに記録しておく。
- ⑦ 選手受付をせずにスイム受付に来た選手については、基本的に選手受付場所まで戻り選手受付をしてからスイム受付を行うように指示する。
- ⑧ アンクルバンドを受け取らずに待機エリアに入らないようにコントロールする。
- ⑨ グループ毎の全ウェーブの受付終了後、残ったアンクルバンドと受付リストを照合し、相違がないか確認する。グループ毎にDSNリストにレースナンバーを記録する。
- ⑩ DNS分のアンクルバンドはグループ毎にまとめて所定の場所に保管する。
- ⑪ スイム競技終了後に、残ったアンクルバンドを計測会社に渡す。アンクルバンドの受け渡しは必ずTOが行い直接手渡しする。
- ⑫ スイム終了後、DNS情報を紙で本部に連絡する。
- ⑬ 召集時刻に間に合わなかった選手については、時間を厳守するよう注意した上で、可能な限り同ウェーブでスタートさせる。同ウェーブに間に合わなかった場合は、同グループの後続ウェーブでスタートできることとするが、スイム制限時間は本来のウェーブの制限時間とすることを選手に了承してもらうこと。

3.3 M2：召集・誘導

- ① バルコニー手前に「メガネ置き場」を設置するが、物品管理は自己責任とする。
- ② 履物を履いてきてしまった場合、履物はグループ毎にカゴ（レジカゴ）へ入れる。
- ③ アンクルバンドは確実に足首に装着させる。（紛失したら計測されないとともに選手には弁償義務が生じる旨を説明する）
- ④ 選手をスイムキャップと同じプラカードを持ったボランティアの前に整列させる。整列後注意事項を説明する。注意事項については、P9「待機エリアでの説明ポイント」を参照。
- ⑤ プラカードを持っているボランティアと共に選手をポンツーンに移動させる。選手の列の先頭にTOが1名付く。
- ⑥ 時刻を確認し、選手を試泳エリアに誘導する（入水させる）。
- ⑦ ⑥のTOはウェーブ全員が試泳エリアに移動したことをチーフに伝える（口頭または合図）。

3.4 M12：試泳監視および選手誘導

- ① 試泳している選手に異常がないか監視する。

- ② 試泳は、1周回。2周回しないようにコントロールする。
- ③ 前のウェーブがスタートしたら、次のウェーブの選手を試泳エリアからポンツーン経路でスタートエリアに誘導する。
- ④ スタート3分前までには試泳を終えてスタートエリアに移動するよう誘導する。

3.5 M3/M4/M7 (M5/M6) : スタートコントロール

- ① M4 (M6) はポンツーンに来た選手を順次スタートエリアに誘導する。コース説明と注意事項伝達を実施する。
- ② 注意事項についてはP10「ポンツーンエリアでの説明ポイント」を参照。
- ③ 各ウェーブのスタート2分前までに、スタートエリアに誘導し、スタート待機させる。
- ④ M3はスタート時刻までの残り時間を伝える。3分前、2分前、1分前。但し1分前以降はカウントしない。
- ⑤ ポンツーンに座って待っている選手も、スタート1分前には入水させる。
- ⑥ スタートラインより下がってもらう。M7は海上より、スタートラインより前に出ないように注意する。
- ⑦ フライングを厳しくとること、焦らずに穏やかに泳ぐ方向を確認してスタートすることを伝える。(穏やかな表情で)
- ⑧ スタート時刻になったら、フライング状態にないことを確認の上、ホーンを鳴らす。スターターをゲストが行う場合は、M3又は審判長がスタートのタイミングを伝える。
- ⑨ M7はフォルトスタートの監視を行う。
- ⑩ 試泳後、スタート前、周回中、スイムアップ後など、ポンツーン上で水分を求める選手が多数いるため、バルコニー横のエイドステーションから2リットルペットボトルの水を5箱(30本)程度用意しておく。(エイド担当と要調整)

4 競技中におけるオペレーション

4.1 M3/M4/M7 : ペナルティ対応

- ① フォルトスタート (スターターがホーンを鳴らす前)
1人、2人であればスタートラインまで戻して再スタート。(ペナルティなし)
- ② フォルトスタート (スターターがホーンを鳴らした後)
フォルトスタートした選手がいた場合は、選手のレースナンバーを控えておく。しかしながら、ほとんどの場合レースナンバーは確認できないので、ゴーグルの形や色等を控えること。フォルトスタートしたことが、その後のレースにおいて明らかなアドバンテージになったと判断された場合は審判長に連絡し、判断を仰ぐ。

4.2 M7/M8：選手の安全管理（救助艇）

- ① M8は氷川丸側ブイのショートカットの監視を行う。
- ② 危険な（溺れそうな）選手の監視/声掛け/リタイア勧告を行う。
- ③ リタイア勧告した選手を引き上げバルコニー（基本的に氷川丸側）へ搬送する。
- ④ リタイア選手をM10（M6）へ引き渡す。尚、緊急の場合はポンツーンへ搬送される可能性がある。搬送先については監視船のライフセーバーと連携して決める。
- ⑤ グループ毎に最終ウェーブの制限時間を越えてもスイムフィニッシュできない選手については引き上げる。（ライフセーバーとの調整が必要）
リタイアの対応については「6.リタイアする選手・スキップ対応」を参照。
- ⑥ エイジパラの選手が制限時間45分経過時にフィニッシュまで100m以上の場合、引き上げを行う。

4.3 全TO：選手の安全管理（陸上）

- ① 各TOは選手スタート後、担当業務についていない場合は陸上より選手の監視を行う。（双眼鏡等を使用し、泳ぎ方、顔色等を判断する）
- ② 危険な選手を発見した場合は、近くのライフセーバー、救助艇へ連絡し対応してもらう。
- ③ ポンツーン上のTOは1周回目を終了し、ポンツーンにあがってくる選手の状態の確認を行う。
 - ・ 明らかに疲れている選手、体調不良として見て取れる選手については2周目入水前に声掛けを行う。必要であれば休息させる。
 - ・ 疲労が激しい選手、具合の悪そうな選手についてはメディカルスタッフに対応を依頼する。
 - ・ 疲労が激しい選手については継続、リタイアの意思確認を行う。
 - ・ 継続の意思があり、継続できる状態であれば、競技を継続させる。それ以外の選手はリタイア勧告を行う。

4.4 M5/M4（M6）：周回管理

- ① 1周回目を終えた選手が2周回目に入るとき、入水位置まで選手を誘導する。
- ② 他の選手やスタート待機中の選手と接触しないように、誘導する。
- ③ 入水位置に立ち、「ここで入水してください」と声掛けを行う。同時に「頭からの飛び込みは禁止です」「飛び込まないでください」「足からゆっくり」と注意する。
- ④ 各グループの最終ウェーブのスタート時に第1ウェーブの選手が周回に入る可能性が有る場合は、これをコントロールする。（スタートエリアより手前で周回させる）

- ⑤ ポンツーン上で選手に水分を要求された場合は、予め用意したペットボトルで対応をする。エイドステーションではないため、コップは用意されていない。2Lサイズのペットボトルをシェアする場合は、衛生面にも留意する。

4.5 M6：周回時タイムカット

- ① オリンピックディスタンス1周回目で制限時間（22分30秒）を超えた選手にリタイア勧告する。リタイアの対応については「6.リタイアする選手・スキップ対応」を参照。
- ② 体調不良と見て取れる選手に対しては、2周目の入水前に必ず声がけすること。
- ③ タイムカット後はプレトランジションエリアに選手を集合させる。
- ④ ポンツーン付近の海面の清掃を行う。潮の流れによってはポンツーン付近に大量のゴミがたまるため、用意されたタモでゴミを回収する。
- ⑤ DNFリストを作成する。グループごとに取りまとめ、LINE®グループで共有する。

4.6 M9：誘導（タイムカット者誘導）

- ① タイムカット者をポンツーン上のプレトランジションエリアへ集合させる。
- ② グループの周回毎に、タイムカットされた選手を招集エリアへ誘導し外にだす。
- ③ ポンツーンでリレー選手がリタイアした場合は、無線でトランジションへ連絡する。

4.7 M10：リタイア対応（氷川丸側バルコニー）

- ① 救助船で搬送されてきた要救護者とリタイア者の対応を行う。
- ② 氷川丸バルコニーでリレー選手がリタイアした場合は、無線でトランジションへ連絡する。
- ③ グループ毎のDNSリストの作成を行う。グループごとに取りまとめ、LINE®グループで共有する。

5 スイムフィニッシュにおけるオペレーション

5.1 M6：最終周回目タイムカット

- ① スイムフィニッシュ時、ポンツーン上で制限時間（エイジパラ45分、スタンダード45分、スプリント25分）を超えた選手については、リタイア勧告する。リタイアの対応については「6.リタイアする選手・スキップ対応」を参照。
- ② 眼鏡置き場の補助を行う。

5.2 M9：誘導（タイムカット者誘導）

- ① タイムカット者をポンツーン上のプレトランジションエリアへ集合させる。
- ② グループの周回毎に、タイムカットされた選手を招集エリアへ誘導し、外にだす。

5.3 M9（M11）：誘導（トランジションへの導線誘導）

- ① スイムUPした選手をトランジション側へ誘導する。

5.4 M11：記録/伝達

- ① グループ選手がすべてフィニッシュしたら、（制限時間になったら）受付のDNSリスト（できれば）、ポンツーン、ポンツーン側バルコニー、氷川丸側バルコニーのリタイアリストを回収する。
- ② 回収したリストからグループ毎のリタイアリスト、DNSリスト(全体)を作成する。
- ③ リストを作成し、本部へ配布する。

6 リタイアする選手・スキップの対応

6.1 リタイア・スキップする選手への基本オペレーション

- ① リタイア選手の状態を確認する。
- ② メディカルの対応が必要な場合は、メディカルに引き渡す。
- ③ アンクルバンドの回収を行う。メディカル引き渡しの場合は、同時にアンクルバンドの回収を行う。
- ④ リタイア選手のレースナンバー、できれば時間をリタイアリストに記入する。
- ⑤ リタイアリストはスタートグループ毎に作成する。
- ⑥ 回収したアンクルバンドは決められた場所で保管し、スイム終了後に計測会社へ渡す。この時、必ず手渡しし勝手に置いて行かないこと。
- ⑦ スイム会場以外でリタイア対応を行う場合は、リタイア場所を記入する。
※リレー選手がリタイアした場合も同様のオペレーションを行う。スキップした選手にはトランジションで新たなアンクルバンドが渡されるため、アンクルバンドは回収する。
- ⑧ リタイアした選手は、スイムエリアから確実に退場してもらうよう誘導する。（昨年リタイア者がT2からアンクルバンドを着けずにランスタートする事案が発生したため）リタイア選手には、念のためバイク、ランをスタートできないことを通知する。

6.2 選手の状況による対応

6.2.1 スイム競技中（ケース1＝選手に意識がある）

- ① ブイにつかまるなどして手を挙げている選手を速やかに発見する。
- ② 監視船は当該選手のもとに急行する。
- ③ 選手本人にリタイアの意思を確認する。
- ④ 選手がリタイア申告をした場合は速やかに近隣の救助船またはライフセーバーに連絡し、選手を救助してバルコニーへ曳航させる。（コース内横断可）

6.2.2 スイム競技中（ケース2＝選手に意識がない）

- ① 明らかに意識を失っていると思われる選手を速やかに発見する。
- ② 監視船と近隣の救助船は当該選手のもとに急行する。
- ③ 救助艇で選手を救助し、バルコニーへ曳航させる。(コース内横断可)
- ④ 直ちにメディカルスタッフによる応急措置を取らせる。

6.2.3 周回中(ポンツーン上でのリタイア申告)

- ① 明らかに意識が朦朧としている選手またはポンツーン上で倒れこんだ選手は一旦、他の選手の妨げにならない場所で休ませ、レース続行の意思を確認するレース続行が危険と判断した場合は、リタイア勧告する。
- ② 選手がリタイア申告をした場合は、岸に向かってポンツーン右側を通過してバルコニーに移動させる選手が自力歩行できない場合、メディカルテントに担架を要請する。
- ③ 必要に応じてメディカルスタッフによる応急措置を取らせる。

6.2.4 スイム終了後

- ① 明らかに意識が朦朧としている選手またはポンツーン上で倒れこんだ選手は一旦、他の選手の妨げにならない場所で休ませ、レース続行の意思を確認するレース続行が危険と判断した場合は、リタイア勧告する。
- ② 選手がリタイア申告をした場合は、他の選手の競技に支障のない場所に移動させる。
- ③ 必要に応じてメディカルスタッフによる応急措置を取らせる。
- ④ カットオフ計測地点で制限時間を超えた選手にリタイア勧告する。

7 付帯事項

7.1 選手の持ち物について

7.1.1 バルコニー手前に「メガネ置き場」を設置するが、物品管理は「自己責任」とするまた、設置および管轄は組織委員会の担当とし、スイムパートTOは関与しないこととする

7.1.2 バイクセッティング終了後、集合場所(アンクルバンド渡し場所)まで山下公園内の移動に使った履物はウェーブ毎に分かれたコンテナボックスにウェーブ毎に収納させる。コンテナボックスはカゴの場合もあるため、使用個数は適宜決める。

7.1.3 スイムフィニッシュ後トランジションエリアまでの履物は禁止とする(カーペットを敷くので、全員「はだし」で走らせる)→持ってきてしまった物は決められた場所で保管するが、紛失した場合、主催者側は責任を負わない

7.1.4 落とし物(スイムキャップ・ゴーグル)はTOが回収し、競技終了後大会本部に届ける

7.2 スタートエリアのエイド(給水)について

6.2.1 選手はエイド担当の指示に従うが、スイム担当者もフォローする

7.3 「競技説明会」で選手に伝えてほしいこと(スイムパートからの要望)

- 7.3.1 オリンピックディスタンスは750m を2周回、スプリントは1周回とする（周回不足は失格）オリンピックディスタンスの1 周回目の制限時間（22分30秒） また、
- 7.3.2 アンクルバンドを受け取ったら速やかに足首に装着し、TOの指示に従って整列すること
- 7.3.3 スタート前の待機方法(ウェーブ全員水中からフローティングスタートをする=ポンツーン上での待機禁止)およびフォルトスタートに関して
- 7.3.4 上記3.4「2周回目への移行」に関して全般(特に「頭からの飛び込み禁止」について)
- 7.3.5 上記4.2「ポンツーン上の交通整理」に関して
 - ①スタート前バルコニーからポンツーンへ移動する選手およびスイムフィニッシュした選手は「左側通行」を厳守すること
 - ②スタート前バルコニーからポンツーンへ移動する選手は、オフィシャルの指示に従い、周回する選手およびスイムフィニッシュした選手の進路を妨害しないように一時停止をし、道を譲る（あける）こと
- 7.3.6 リレーのみスキップを認める。個人についてはスキップを認めない。
- 7.3.7 1周回目終了後、ポンツーンに上がりコーンで表示された指定入水ポイントより入水すること。入水にポイントに関してはTOの指示に従うこと。
- 7.3.8 上記 6.1「選手の持ち物について」、特に履物についての取り扱い
- 7.3.9 昨年と同様に UITEMATE に使用に関する注意点
- 7.3.10 レスチューブの使用について、装着 OK。膨らませた場合はリタイア
- 7.3.11 スイムエリアまで履いてきた履き物の受け取りについて
- 7.3.12 スイムフィニッシュの制限時間計測ポイントとリザルトの計測ポイントの位置の違いについて

8 スイム競技終了後

- 8.1 各パートで使用した備品を確認する。サブチーフは消耗品を除く備品がそろっていることを確認する。
- 8.2 後片付けなどを済ませ、選手招集エリアにてスイムパートTOミーティングを実施する
- 8.3 TOで備品を手分けして運搬し、確実に元の場所へ返却する
- 8.4 解散（他のパートからのヘルプ要請があれば、適宜対応する）

待機エリアでの説明ポイント

①アンクルバンドについて

- ・アンクルバンドは、フィニッシュまでつけていくこと。
- ・アンクルバンドをつけているか。番号とレースナンバーが合っているかの確認。
- ・アンクルバンドをつけていない場合はDNSになること。
- ・アンクルバンド配布係は間違える事もあるので、レースナンバーとアンクルバンドの番号が合っているか確認するのは選手の義務であること
- ・アンクルバンドは、トランジションで、ウェットスーツと一緒にとれて外れることがあるので注意。

②試泳・スタートについて

- ・スタート 15 分前に試泳エリアに入水する。
- ・試泳はスタート 5 分前までの 10 分間で 1 周回を必ず行うこと。(2 周回はしないこと)
- ・水温が〇〇℃と低いので、十分なウォーミングアップをすること
- ・スタート 5 分前 (前のウェーブのスタート後) に T O から合図があるので、ポンツーンに一旦上がって、スタートエリアに移動する。
- ・静かに入水し、飛び込みは禁止する。
- ・スタートはフローティングスタートであるが、ポンツーンにつかまってスタートしても良いこと。

③ポンツーン上での注意事項

- ・ポンツーン上では、レース中の選手・医療関係者・メディア関係者と交錯するので、左側通行を守り、T O の指示に従うこと。
- ・1 周から 2 周回への移行時は、スロープからポンツーンに上がり、足から静かに入水すること。

④制限時間について

(スタンダード) ・第 1 ブイまでに 10 分以上かかる場合には DNF になる可能性があること

- ・1 周回終了時、フィニッシュ時の 2 回関門を設けること
- ・1 周回終了時はポンツーンに上がった時点で 22 分 30 秒であること
- ・スイムタイムカットはポンツーン上、制限時間 45 分で行う。このため、山下公園に入った所にある計測タイムとは異なる。

(スプリント) ・スイムタイムカットはポンツーン上、制限時間 25 分で行う。このため、山下公園に入った所にある計測タイムとは異なる。

⑤救助について

- ・ウェットスーツを着ているので、リラックスをすれば浮く
- ・泳いでいるときに、ライフセーバーのボードなどにつかまるのは O K。
- ・救助が必要な場合は、頭の上で手を振れば、ライフセーバーが救助に向かうこと。時には勇気あるリタイアも重要である。
- ・緊急時 (要救護者が出た時) は、救助艇やレスキューボードが救助のためにコースに進入するので、止まってもらうこと。
- ・レスチューブを所持している場合は、膨らまして待つこと。

以上 安全を重視して、楽しんで下さい。

スタートエリアでの説明ポイント

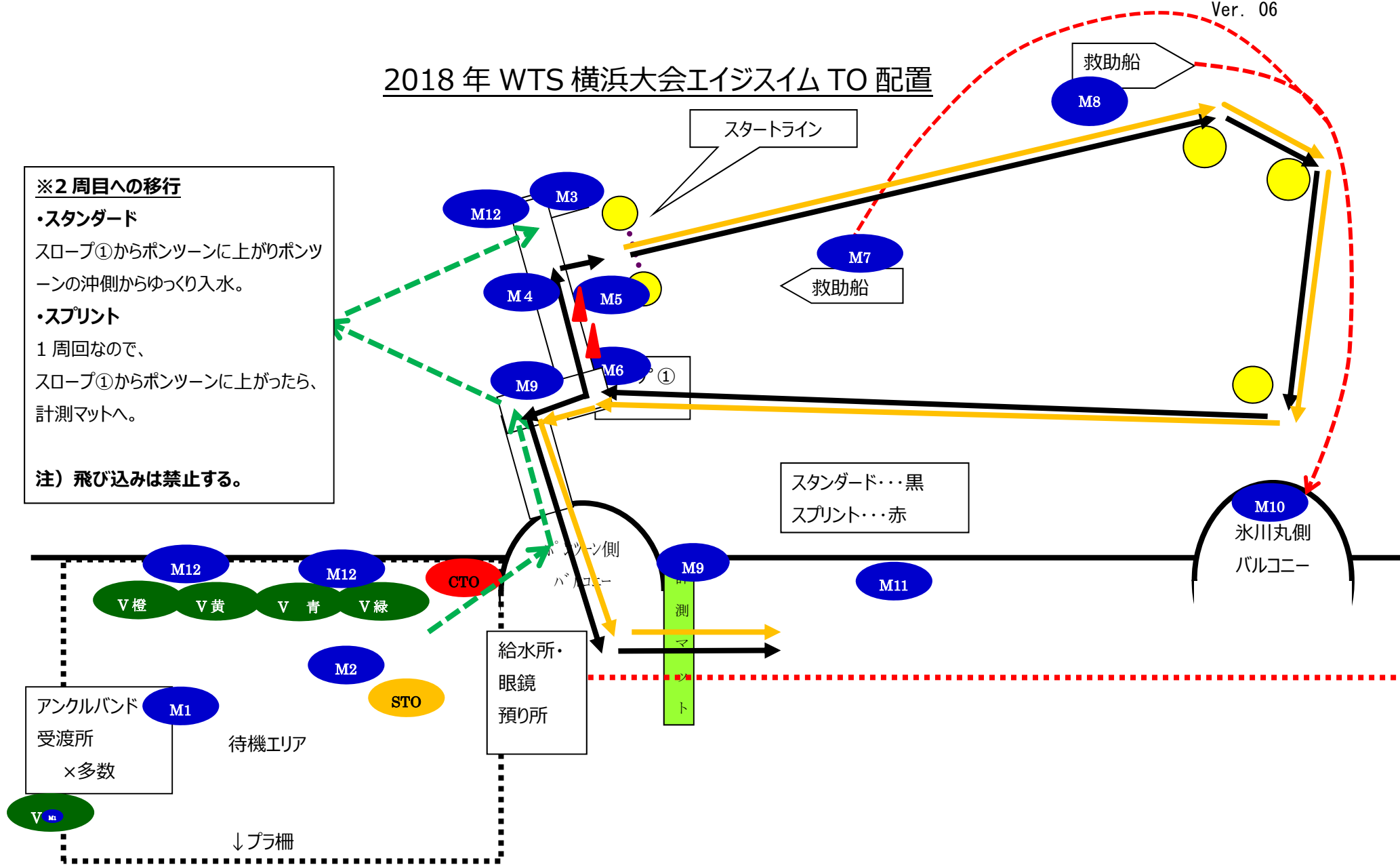
- ① スタート方法及びスタートライン
- ② コースの大まかな説明（どのブイをターンするか等）
- ③ 2周回目の入水時はポンツーンから飛び込まず、スタンダードでは足からゆっくり入水すること。
- ④ スタート1分前までにスタートラインより手前に下り、待機すること。守らない場合はスタートを認めないこともあること。
また、余裕があれば興奮状態にある選手に落ち着いてスタートしてもらえよう、緊張をほぐすようなトークを交える。
（結構大事）
適宜、説明を理解できなかった選手からの質問に答える

2018年WTS横浜大会エイジスイムTO配置

※2周目への移行

- ・スタンダード
スロープ①からポンツーンに上がりポンツーンの沖側からゆっくり入水。
- ・スプリント
1周回なので、スロープ①からポンツーンに上がった後、計測マットへ。

注) 飛び込みは禁止する。



必要備品リスト

No	備品名	数量	単位	用途	設置場所	備考
1	スタートホーン	1	個		ポンツーン	
2	スタートホーン予備	1	個		ポンツーン	スタートホーン又は、スターフォン用ガスボンベスペア
3	トラメガ	6	台	スタート召集、注意事項説明等	ポンツーン2 台 試泳2 台 召集 1 台 スイム受付1 台	少なくとも2台は大音響タイプ
4	プラカード	—	—		召集 スイム受付	各ウェーブ分。(昨年と同様)
5	テーブル	5~6	台	アンクルバンド配布及び、スキップ対応	スイム受付	
6	椅子	10	脚	受付用 リタイア対応用	スイム受付 2 脚 バルコニー 各4脚	
7	スイムキャップ予備				スイム受付	各ウェーブのカラー全色
8	アンクルバンド用輪ゴム予備				スイム受付	
9	ウェーブとキャップの色が分かる資料	2	枚		スイム受付	
10	アンクルバンド装着方法の注意書き	2~3	枚		スイム受付	パウチして使いまわせるようにして欲しい
11	ポリ袋 (ゴミ袋)	30	枚	アンクルバンド、ペットボトル回収等		ポンツーン 3 枚 バルコニー 各5 枚 スイム受付予備7 枚
12	ガムテープ	4	個		ポンツーン 1個 スイム受付 1 個 バルコニー 各1個	白1個 表面に文字が書けるもの3個
13	ボールペン	5	本		スイム受付	

No	備品名	数量	単位	用途	設置場所	備考
14	マジック	7	本		スイム受付 2 本 ポンツーン側バルコニー 3 本 氷川丸側バルコニー 2 本	マッキー
15	給水用ペットボトル	2	箱	救護用水	ポンツーン	500ml のペットボトル (審判テントより調達)
16	選手名簿	2	部	アングルバンド 配布	スイム受付	
17	コーン コーンバー 標識テープ	5 4 1	個 本 個	ポンツーン上周 回時の誘導	ポンツーン	どのように使用するか調 整要
18	履物入れ (レジカ ゴ)	30	個	履物入れ	召集	4個×5グループ+予備
19	水温計	1	個		ポンツーン	
20	ほうき/デッキブ ラシ	2	本		ポンツーン	
21	タモ	4	本		ポンツーン	
22	複写式メモ用紙	3	冊	DNS、DNFリス ト作成用	ポンツーン、その ほか	
23	水	30	本	ポンツーンエイ ド用	ポンツーン	
24	ポンツーン専用マ イク	1	本	ポンツーン上で の選手コントロ ール用	ポンツーン	トラメガでは全ての選手 に声が届かない

スイムエリアの備品の運搬について

- ① S T Oおよび、各ポジションのTOは、漏れのないよう、スイム会場に備品を移動、配置すること
- ② スイム競技終了後は、使用した備品を確実に元の場所へ返却すること

5月13日 (日)

スタンダード スイム 2周回
 リレー バイク 6周回
 ラン 象の鼻2回、山下埠頭3回

スプリント

スイム 1周回
 バイク 3周回
 ラン 象の鼻1回、山下埠頭2回

エイドステーション

スイムスタート
 バイクコースピットイン
 ランコース

荷物預かり 6:30~15:00
 男性:石のステージ 女性:フィニッシュエリア
 更衣テント トランジションエリア (女子のみフィニッシュエリアにも有り)

交通規制	7:00~13:00
メカニック	6:00~15:00
バイクピックアップ	12:50~15:00

[パラトライアスロン]

カテゴリー	人数	キャップ
TRI1(11~17)	7	レッド
TRI2(21~22)	2	イエロー
TRI3(31~33)	3	イエロー
TRI4(41~46)	6	イエロー
TRI5(51~53)	3	イエロー
TRI6(61~75)	15	グリーン
Guide	15	ホワイト

[受付時間]

グループ	時間
パラ	6:00~6:15
A(1~3)	6:00~6:50
B(4~6)	6:00~7:50
C(7~9)	6:00~8:50
D(10~14)	6:00~9:50

[スタンダード]	No	アソシエイト配布	人数	整列	プレート移動 ~拭泳	ST	第1ブイ	1周回	制限 時間	カテゴリー	キャップ	グループ TR	セッティング予定
エイジPara	11~17, 61~75 Guide	6:45~7:00	22+15	-	-	7:15	-	-	8:00	TRI1, TRI6	-	-	6:00 ~6:30
	21, 22, 31~33, 41~46, 51~53		14	-	-	7:20	-	-	8:00	TRI2, 3, 4, 5	-	-	
第1ウエーブ	1001~1166	7:20~7:35	166	7:40	7:45~7:55	8:00	8:10	8:22:30	8:45	男子34	イエロー	A	6:00 ~7:15
第2ウエーブ	2001~2136		135		7:50~8:00	8:05	8:15	8:27:30	8:50	男子35-39	レッド		
第3ウエーブ	3001~3158		158		7:55~8:05	8:10	8:20	8:32:30	9:55	男子50-54	ブルー		
第4ウエーブ	4001~4142	8:20~8:35	393	8:40	8:45~8:55	9:00	9:10	9:22:30	9:45	男子40-49	オレンジ	B	6:00 ~8:15
第5ウエーブ	5001~5142				8:50~9:00	9:05	9:15	9:27:30	9:50		パープル		
第6ウエーブ	6001~6142				8:55~9:05	9:10	9:20	9:32:30	9:55		グリーン		
第7ウエーブ	7001~7166	9:20~9:35	156	9:40	9:45~9:55	10:00	10:10	10:22:30	10:45	男子55-	ホワイト	C	6:00 ~9:15
第8ウエーブ	8001~8122		132		9:50~10:00	10:05	10:15	10:27:30	10:50	女子40-	パープル		
第9ウエーブ	9001~9065		65		9:55~10:05	10:10	10:15	10:32:30	10:55	女子39	グリーン		
	9101~9102	2	リレー (女)	グリーン									
	9201~9214	14	リレー (混)	グリーン									
	9301~9317	17	リレー (男)	グリーン									
[スプリント]	No	アソシエイト配布	人数	整列	プレート移動 ~拭泳	ST	第1ブイ	1周回	制限 時間	カテゴリー	キャップ	グループ TR	セッティング予定
第10ウエーブ	101~158	10:20~10:35	58	10:40	10:45~10:55	11:00	-	-	11:25	男子39	ホワイト	D	6:00 ~10:15
第11ウエーブ	201~237		37		10:50~11:00	11:05	-	-	11:30	男子40-44	パープル		
第12ウエーブ	301~346		46		10:55~11:05	11:10	-	-	11:35	男子45-49	ブルー		
第13ウエーブ	401~507		107		11:00~11:10	11:15	-	-	11:40	男子50-	オレンジ		
第14ウエーブ	601~651		51		11:05~11:15	11:20	-	-	11:45	女子	レッド		

	スイム	バイク	ラン
制限時間	スタンダード 45分(22分30秒)	2時間45分	3時間45分
	スプリント	25分	1時間25分

※バイク最終スタート時間 12:25
 ※バイク競技終了 12:45

	スイム	バイク
リレースキップ	集合	11:00
	スタート	11:05
		12:45
		12:50

[Swim 配置表]

SEQ	氏名	2018 ポジション	無線	トラメガ	2017 同ポジション
22	稲田 隆俊	C	○		○
7	角田 剛	M1			○
4	伊藤 誠	M1			○
12	木幡 智彦	M1			○
17	仲宗根 達也	M2		○	○
20	山田 和彦	M2		○	○
23	元嶋 直子	M2	○	○	
13	小林 裕明	M3		◎	
10	北島 礼子	M4	○		
16	中尾 聡志	M5			○
2	井口 大介	M6			○
14	佐藤 秀雄	M6			○
21	山田 正和	M7			○
11	久篠 美佳	M8	○		
18	八木 健	M9			○
19	山口 政芳	M9			○
1	青山 英司	M10			
3	石井 なおみ	M10	○		○
9	鎌下 優一	M11	○		
15	渡守 俊子	M11			
5	岩田 聖市	M12		◎	
6	小原 博史	M12		○	
8	門屋 良	M12			

稲田携帯 080-5538-1539

更新情報

Ver	更新内容	更新者
01	昨年のマニュアルをベースに赤字の個所を追記・訂正	稲田隆俊
02	スイム召集時間遅刻者の対応、DNS、DNFリストの伝達プロトコルについて、追記	稲田隆俊
03	遅刻選手の対応について追記 DNFリストの伝達プロトコルを追記	稲田隆俊
04	4.4 ⑤の内容を修正 タイムテーブルを更新	稲田隆俊
05	配置表を更新	稲田隆俊
06	配置表の配置移動 (SEQ4, 11 の配置変更) タイムテーブルのミスタイプを更新 (エイジパラ受付時刻)	稲田隆俊